

一般社団法人 全国リハビリテーション学校協会
令和3年度 第2回理事会 議事録

日時：令和 4 年 3 月 17 日（木）15:00～16:30

会場：WEB開催（ZOOM）

出席：理事31名・監事2名・顧問1名

（定款により理事会の成立が認められた）

高木理事長および椿原会長挨拶

議題

I. 令和 3・4 年度 委員会担当理事および構成員について

西田事務局長より、資料に基づき、各委員会担当理事・委員長・委員が確認された。

II. 令和 3 年度事業報告

西田事務局長より、資料に基づき、令和 3 年度事業の概要が報告された。現在活動中の事業もあるため、令和 4 年度理事会・総会で最終的な報告をする予定である。

III. 令和 4 年度事業計画・予算案

- ・西田事務局長より、資料に基づき、令和 4 年度事業計画が報告された。
- ・令和 4 年度予算案については現在調整中であり、次回理事会・総会までに整理していく。「地域ブロック活動援助費」が 0 円となっているが、今年度から臨床実習指導者講習会が開催できているため、次年度より地域ブロックではなく実行委員会予算に含めての計上となる。
- ・内山理事より、倫理・評価委員会がハラスメント等の相談窓口としての機能を担う予定はないと指摘があった。
→西田事務局長より、倫理・評価委員会からの報告をふまえて、改めて整理し直したいと回答があった。
- ・高木理事長より、ハラスメント相談窓口の担当役員は必要なため、決めると良いのではないかと意見があった。
→西田事務局長より、後の報告を受けて整理したいと回答があった。
- ・高木理事長より、財政的に余裕があるため、事務職員や部屋などを確保し、できるだけ国際医療福祉大学事務局から独立した組織にしていきたいという意向が伝えられた。

IV. 経理運用規程について

- ・西田事務局長より、資料に基づき案が報告された。これまで旅費規程しか明示されていなかったが、様々な相談が事務局に届いている。これまで各委員会や各部会で運用されていた現状を整理し直しており、次年度の理事会までに整えたい。運用は従来どおり、全国リハビリテーション学校協会の申請書を用いて申請する。
- ・高木理事長より、講師謝礼について、大学を前提とした職位や職種別の基準は必要ないのではないかと考えているが、ぜひ事務局長まで意見を寄せていただきたいと意見があった。

V. 令和3年度 臨床実習指導者講習会のご報告

- ・西田事務局長より、資料に基づき、令和3年度臨床実習指導者講習会の終了と、応募者・参加者人数等が報告された。参加者の割合として、理学療法士・作業療法士協会の非会員が多く、また申込みが多数で非常に需要が高かったため、講習会を継続して開催したい。
- ・高木理事長より、応募したが受講できなかった者が多いため、都道府県や養成校での開催もしてもらおうと良いとの意見があった。

VI. 令和3年度 理学療法士作業療法士専任教員養成講習会のご報告

- ・黒澤理事より、資料に基づき、第1回理学療法士作業療法士専任教員養成講習会の終了と、アンケート結果等が報告された。
- ・西田事務局長より、第2回企画案については理学療法士協会、作業療法士協会と検討を進めていることが報告された。

VII. 学術大会に関するご報告

1) 第34回大会 開催報告

終大会長より、資料に基づき、第34回教育研究大会・教員研修会について報告された。

2) 第35回大会 準備状況

木林大会長より、資料に基づき、第35回教育研究大会・教員研修会の企画案が報告された。日時は2022年10月29日(土)・30日(日)で会場は金城大学で実施する。感染状況を考え今大会の開催形式はオンラインとして準備を進める。

VIII. 言語聴覚士学校養成所カリキュラム等改善検討会の経過報告

- ・種村副会長より、資料に基づいて、言語聴覚士学校養成所カリキュラム等改善検討会、および厚労科研研究班における審議の状況について報告された。養成課程が複数あり、その間に矛盾が生じていることが問題となっている。
- ・高木理事長より、理学療法士・作業療法士指定規則についても5年ごとの改訂の委員を選出する必要があると意見があった

IX. 委員会からの審議・報告事項

1) 倫理・評価委員会

- ・内山理事より、倫理・評価委員会で養成校学生からのハラスメントの訴えに対応した経緯から、リハビリテーション教育評価機構の指導内容に臨床実習の評価を加えてほしいという要望が提示された。
→才藤理事より、「評価機構に持ち帰り、対応したい。全体的な対応は評価機構で、個別のケースに対する対応は学校協会でするのが良いのではないか。どこまで対応すべきかは、顧問弁護士と相談した方が良いだろう。指定規則の改訂では臨床実習施設とのコミュニケーションを養成校側に求められているため、学生だけでなく、養成校側への個別対応も必要だろう。」と意見があった。
- ・内山理事より、ハラスメント相談窓口を作るのは学生にとって有益だが、どこまで対応できるかを規定してからの方が良いと思うと意見があった。
→西田事務局長より、事務局としても才藤理事、陣内理事とも話し合っ調整したいと回答があった。

2) 学術委員会

- ・山田理事より『リハビリテーション教育研究 投稿規程』改訂案が提示された。
- ・出席者より反対意見がなかったことをふまえ、西田事務局長より原案に沿って改訂を進めるよう指示された。

3) 広報委員会

鈴木理事より、資料に基づき、2022年4月に予定されているホームページのリニューアルの進行状況について報告された。

4) 国家試験対策委員会

- ・金尾理事より、資料に基づき、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士国家試験の採点除外とした方が良いと思われる問題の調査と、受験に関わる問題点の改善要望アンケート調査の結果について報告された。

- ・西田事務局長より内容を整理して、厚生労働省に受験に関わる問題点に対する意見書を提出する準備をしたいと回答があった。

X. その他

1) PMET 研修会への運営委員および協力員の協力について

西田事務局長より、運営委員は黒澤理事と松下理事に依頼したことが報告された。協力委員は各ブロックより選出している段階である。

2) 理学療法士作業療法士指定規則改定（5年ごと）に向けた対応準備について

西田事務局長より、理学療法士協会の斉藤会長、作業療法士協会の中村会長と相談しながら進めていくことが説明された。

以上

議事録署名人

代表理事

高 木 邦 格

監 事

徳 永 千 尋

監 事

山 田 千 鶴 子
